

令和3年度 第1回鶴見・あいねっと（鶴見区地域福祉保健計画）推進委員会 議事要旨

日時：令和3年7月29日（木）10：30～12:00

場所：鶴見区福祉保健活動拠点 多目的室

推進委員：杉浦委員長、八森副委員長、

石井委員、板山委員、押山委員、門脇委員、日向代理委員（烏田委員代理）、川合委員、桑島委員、小林委員、齊藤委員、福井委員、藤田委員、増子委員、渡邊委員

（欠席：烏田委員、神保委員、富樫委員）

事務局：【区役所】

鶴見区長、福祉保健センター長、福祉保健課長、高齢・障害支援課長、こども家庭支援課学校連携・こども担当課長、生活支援課長、高齢・障害支援課地域包括ケア推進担当係長、福祉保健課事業企画担当係長、事業企画担当職員

【区社協】

事務局長、事務局次長、事務局職員

1 開会（進行：福祉保健課事業企画担当係長）

写真撮影の承認及び議事録のホームページへの掲載について確認

2 委員長あいさつ

委員の皆さまにおかれては、いろいろなところでコロナの影響によりご活躍が制限されているのが現状だが、これからどのように目的を達成していくか、皆さまのお知恵を拝借したい。本日は事務局から新たな素案等について説明がある。先月、一部の委員で内容の検討を行った。皆さまの思い等をご発言いただき、活発な会議となることを期待している。よろしくお願ひしたい。

3 鶴見区長あいさつ（進行：杉浦委員長）

例年であれば、地域の様々な行事等で皆さまとお話させていただく機会が多いが、昨年度よりコロナの影響で難しい。昨日、神奈川県で初めて感染者数が1,000人を超えた。横浜もピークであり、あいねっと事務局である福祉保健課が感染対策の窓口として対応を行っている。

委員の皆さまには、感染拡大防止により活動の見直し等があり、ご迷惑をおかけした。約1年の休止期間を置いて本日の委員会となっている。同じく策定を進めている「横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた鶴見区アクションプラン」についてもご意見をいただきたい。あいねっとはコロナ下だからこそ、これまで以上に皆さま一人ひとりの活躍が求められている。鶴見区約30万人の健康を守るためにも、皆さまのお力をお借りして、しっかりした計画を策定したい。

4 推進委員紹介

資料1（鶴見・あいねっと推進委員会 委員名簿）をもとに、新任委員のみ紹介。

新任委員から一言挨拶。

事務局の新任責任職のみ紹介。

5 議事（進行：八森副委員長）

（1）第4期鶴見・あいねっと策定スケジュールについて（説明：事務局）

資料2（第4期鶴見・あいねっと策定スケジュールについて）をもとに、推進委員会、策定検討プロジェクト、区民意見募集等スケジュール及び区全体計画は3月に公表予定であることを説明した。また、地区別計画については今年度中に策定し、令和4年度より発表、推進する予定であることを説明した。

3月の推進フォーラムについては、コロナ下での開催方法等に関するアンケートへのご協力を依頼した。

（進行）

事務局からの説明に対して、何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

→特になし。

（2）第4期鶴見・あいねっと区（全体）計画の素案（案）について（説明：事務局）

資料（第4期 鶴見区地域福祉保健計画（鶴見・あいねっと）素案（案））をもとに、一般区民やこれから活動を始めようとする方にも読みやすいよう工夫していること、新たに推進の土台を設け、これから活動を始める方の背中を押せるような内容を意識したこと、18地区別計画は分冊とする予定であることを説明し、各委員からご意見をいただけるよう依頼した。

（進行）

事務局から説明があった点について、各委員からご意見をいただきたい。

（委員）

全体の流れ、構成は見やすいが、情報量が多いので、読む人が知りたい情報にアクセスしやすくした方が良い。また、一般の方に馴染みのない単語の説明があると良い。

背中を押す計画になっているかは、個々の状況や地域性によって違いがある。掲載されている活動の中からそれぞれに合った活動を見つけられると思うが、知りたい情報にアクセスできるかは人によるとの印象を持った。インターネットやスマホで情報収集する方もいるので、いろいろな媒体を活用できると良いのではないか。

ケアプラザは地域性によって様々な取組を行っており、情報量が多くなる。自分たちで実施する取組だけでなく、コーディネートする仕事が増えてきている。地域に出て活動することも多いので、そういった部分も紹介できると良い。

（進行）

情報へのアクセス、わかりやすい単語等について、事務局に改めて検討してもらいたい。

（委員）

ボリュームが気になる。イラストを挟むなど関心を持てる作りになっているのは感じる。趣旨等を前に持つてくることで読みやすい構成になっていると思う。

ケアプラザとしての説明は十分だと思うが、ケアプラザが何をしているかより、ケアプラザや地域で何が行われているかを紹介できると良い。地域の活動が掲載されることが励みにもなるので、今回の内容は良いと思う。

ある程度の専門用語はやむを得ないが、普段、関わりのない方にはわかりにくい。

全体的には非常に良い形で編集されていくと思う。良い形で役立てるよう期待している。

(進行)

全体に見やすい、一枚目のイラストのように、一般の方にもわかりやすい工夫が感じられるというお話だったかと思う。

(委員)

生後 57 日目からの一時預かりを行っている。通院や育児疲れなど様々な理由でお子さんを預かっている。毎日行く保育園とは違うが、とてもニーズが高い。感染症対策など緊張の中で行っている。

ボリュームの話があったが、鶴見区でどのような活動が行われているか、自分の活動分野でも知らないことが多いので、このような冊子を見て知れると良い。

子育てに関する冊子もいろいろあるが、置いておいても持って帰る方がいない。若い方は知りたいページだけ写真を撮っているので、IT 化、QR コードの活用も検討した方が良い。若い世代が関心を持ってくれないと新しい担い手は育たない。

(進行)

若い世代にも見てもらえるような工夫が必要とのお話をいただいた。

(委員)

スポーツ推進委員も昨年から活動が難しい。5 月に横浜市ではトライアスロンを実施したが、他の活動は難しく、地域の運動会も二年連続中止になっている。

人材編について、スポーツ推進委員も各町会から推薦してもらおうが、なり手が少ない。市の平均年齢は 62~63 歳。以前は新任者は 60 歳までだったが、65 歳までになった。定年は 70 歳だが、もっと引き上げるとの意見も出ている。

推進の土台の人材編で、地域活動に参加してよかったと思うことに「新たな友人・知人を得ることができた」とある。これはとても大事であり、地域の活性化にもつながる。ぜひ若い方に意欲を持って出てきていただきたい。

行事の報告等を作成しているが、字が多いと見てもらえないので、写真を載せるようにしている。計画にももっと写真を掲載すると良いのではないか。

(進行)

情報の出し方として、写真など目を引くものをもっと増やしても良いのではとのお話をいただいた。

(委員)

まとまっていて良い。特に老人クラブには必要なことが書かれている。老人クラブもコロナで大きな行事はしていないが、昨年は認知症サポーター養成講座を 4 回実施した。今年度も実施予定。また、2 名がキャラバンメイト養成研修を受講している。認知症サポーター養成講座は老人クラブだけでなく、会社や学校でも必要だと思う。ケアプラザを通じて、イトーヨーカドーでの認知症サポーター養成講座に講師として参加した。老人クラブとしては、最終的には自分たちで認知症サポーター養成講座を実施し、地域貢献に結び付けたらとの目標に向かって取り組んでいる。その他、介護予防リーダー養成講座を独自で計画している。

何か写真等のポイントがあると良い。市内には約 1,500 の老人クラブがあるが、自身が所属する老人クラブが鶴見区代表として推薦され、市老連の審査を経て 15 クラブの内の一つに選ばれた。そのつながりで新聞に活動や写真が掲載され、見た方から声をかけられた。やはり写真など目につくものが大事だと思う。

(進行)

写真など目を引くようなもの、ポイントが見た目でわかると良いのではというお話だったかと思う。

(委員)

介護者は動きが取りづらいが、情報を必要としている。ケアプラザや区役所等の力を借りながら取り組んでいる。計画の内容が実現できたら一人ひとりが安心できると思う。

情報を必要とする一人ひとりが意識的、主体的に情報収集できると良いが、疲れもあり動けないこともある。自分たちがどれだけ関わられるか、介護者と連絡を取りながら情報提供などパイプ役ができるかということかと思う。

(進行)

情報、内容は十分であり、主体的に情報収集をするのが難しい方もいるので、情報収集のしやすさ、パイプ役の重要性についてのお話しいただいた。

(委員)

民生委員は身近な相談役、つなぎ役であるが、コロナ禍で思うように活動ができていないのが現状。見守り訪問活動が重要であるが、安心、安全という点でソフトな見守りを工夫している。例えば、訪問に代えた安否確認として、電話や手紙で返事をもらうなど工夫している。一昨年の一斉改選により新任の民生委員が多くいるので、区と連携して新任向けの研修等を行っている。

素案については、全体的に非常に内容が充実しており、実現できれば素晴らしい福祉計画だと思う。これに沿って我々も行動していかなければと改めて感じた。

(進行)

情報量、内容については充実しているとのことご意見をいただいた。

(委員)

コロナ禍で活動できないボランティア団体が多い。コロナによってボランティア活動を考える機会になり、大きな活動よりも個々の取組が重要と感じるようになった。外に出て大きな活動をするということではなく、自宅の100メートル以内で、隣近所と良い関係を作ることも大事だと感じている。

コロナの時代にボランティア分科会長になったが、団体同士の横のつながりを作りたい。鶴見区の中で、100メートル以内で何ができるかを検討したいと考えている。

(進行)

身近な支えあいが必要であり、必要な時に支援につながることで、見守り等に近い内容のお話をいただいた。地域の近所のお付き合いの中でできる取組を具体的に表現してみてもどうかという投げかけだったように思う。

(委員)

連合でも定例の会議は行っているが、13自治会あり、集まろうと思うと100人以上になるため、大きな集まりができない。連合として地域の皆さんを元気づけるために花火を打ち上げ、大変好評だった。

自身が関わっている日本語教室では、参加者が勉強を続けている。一番上手なクラスの人数が最も多く、約30人が学んでいる。コロナで帰国できない人もいる。コロナが早く収まってほしい。

(進行)

ありがとうございました。

(委員)

鶴見区の障害者手帳の交付は増加傾向にあり、軽度のお子さんが非常に多くなっている。機関相談支援センターでは手帳を持っていない方の相談も増加している。

保護者の方へは紙ベースの情報は届きにくい。

53 頁の次にあるライフステージ別の支援はわかりやすい。小さな頃からの地域での学びの積み重ねは、地域づくりに関連するネットワークにつながっていく。軽度の方と面談する機会があるが、一目で見てわかるアプローチ、一緒に考えていく視点ができる。

推進の土台の視点は良い。障害者は保護的な存在になるが、軽度の方は就労している人も多い。自分で主体性をもって種まきをする、相互に地域を作るという点は具体例があって非常に良い。

柱2の成年後見制度も含め、あんしんノートが普及してきている。

気になる点は、障害者、家族も含め、土台作りが重要。5 頁のコラム「数字で見てもよい」について、障害分野は何があるか。区の特徴として障害福祉サービスも多くなっている。区内の社会福祉施設や教育がどうつながり、数字で共有できるかの視点もあると、地域福祉保健計画につながっていくと思う。

表記が「障害のある人」「障害者」とあるが、第3期は「障害のある人」で統一されているのではなかったか。

(進行)

ライフステージ別、推進の土台の視点の部分等にご意見をいただいた。また、施設や学校とのつながりを数字で表現できるような具体的な内容が載せられればというようなお話をいただいた。

(委員)

全体的に気になる点が多い。6 頁の推進の土台と柱は次元が違い、同一に論じられないものだが、目次では同列に論じているように見え、本来土台となるものと柱が混在しているように感じる。つなぎ合わせたような印象も受けるので、基本的な点を見直し、しっかり改正してほしい。

区民の背中を押す計画という点については、人材編、場・機会編は重複する点、分けるべきと思われる点もあるので十分検討してほしい。

(進行)

土台、柱の表現、並びについては策定検討プロジェクトでも議論になった。事務局から説明をしてもらいながら、検討を進めていきたい。また、新しい情報を提供していただきながら策定を進めていきたい。具体的なご意見をいただきありがとうございます。

(委員)

読みやすく、わかりやすい部分もあるが、途中で読み進めにくくなった部分もある。我々の団体は何をするにも人材が必要。まだ理解してもらえていない部分もあるので、このような冊子があると良いが、多くの人に最後まで見てもらえるような冊子になると良い。

年代により紙ベースが良い人、スマホが良い人など違いがある。

(進行)

いろいろな世代があり、文章をわかりやすく、最後まで読めるようなものにしていく必

要がある。

(委員)

保健活動推進員は住み慣れた場所で暮らせるように、柱3にあるような活動を行っている。健康づくりではわっくん体操、ハマトレ、避難場所の確認も含めたウォーキング、感染症予防の勉強会等を行っている。その他、認知症の勉強や、子育て支援として親子の居場所の支援も行っている。どこでどのような活動をしているか載せてもらえると、一人でも多くの方に参加してもらえないか。

(進行)

いろいろな活動をされているので記載されると良いのではとのお話をいただいた。

(委員)

保健活動推進委員会副会長、連合会長も兼ねており、スポーツ推進委員、保健活動推進員等と連携して安全安心な暮らしのための活動を行っている。

中学生との交流会は延期になったが、アンケートではいろいろな地域の交流会、高齢者との交流会、町内会のごみ拾い等を望む声があった。参加したい気持ちはあるが、自分からは声を上げられないことがわかり、こちら側からの積極的な声掛けやポスター掲示等いろいろな手段でのアピールが重要だと感じた。IT化、ライン等の活用も必要だと感じる。

運動会等の大きな行事は中止したが、どうしたらできるのかを検討していきたい。9月にケアプラザとの共同企画で、クイズラリーを実施予定。ケアプラザで販売している作業所の製品を景品として発注しており、そのような部分で障害者の方にも協力していただいている。PTAの保護者に一緒に活動してもらおうなど、子育て世代を取り込むきっかけになると良い。

IKEAよりLED電球の寄贈があり、各町会に一人暮らし高齢者に見守りを兼ねて配布した。向こう三軒両隣の活動をしていきたい。

(進行)

様々な取組の状況やIT化についてのお話もいただいた。

皆さまからは、全体的な情報量としては充実しているが、見る人によっては情報量が多く感じる、土台の視点に評価をいただいた一方、書き方の検討が必要ではないか、いろいろな方に最後まで見てもらえる工夫が必要であり、冊子だけで表現するには限界があるので、ITの活用や、活動の様子の写真の掲載も検討してほしいなどのご意見をいただいた。また、冊子でできること、委員の活動の情報発信と連携して表現できることなどを検討してほしい。

各委員におかれては、事務局に情報提供いただきながら進めていただき、事務局は委員の案を受けて内容を引き続き検討してほしい。それでは、その他の議題に移る。

(3) その他

○第4期地区別計画フォーマットの見直しについて

この様式に沿って各地区で検討を進めている。コロナ下であることや、読んでいただきやすい情報量を考え、以前のA4 4ページからA4 2ページに変更している。

○令和3年度あいねっと推進フォーラムについて

3月に公会堂を確保しているが、コロナ下でどのような方式が考えられるか、集合型にするべきかなど、アンケートにご意見をいただきたい。

○横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプランの策定について（説明：区役所高齢・障害支援課）

別紙資料（「横浜型地域包括ケアシステム構築に向けた鶴見区アクションプランの策定にあたって」「横浜型地域包括ケアシステムの構築に向けた鶴見区アクションプラン（未定稿）素案」）に基づき、地域福祉保健計画とも連動する内容であること、3月末までに策定を進めること等を説明し、ご意見があれば8月31日までに高齢者障害支援課までいただけるよう依頼した。

（進行）

あいねっとに関わることも多い。活動が反映され、いいアクションプランになると良い。

その他、各委員からの情報提供については、時間短縮を踏まえ、事務局までお寄せいただければ、事務局から各委員に共有する。

6 閉会

（八森副委員長）

熱心なご討議をありがとうございました。本日の推進委員会はこれにて閉会いたします。ありがとうございました。